

平成24年度全国学力・学習状況調査について

平成24年4月17日（火）に、中学校3年生を対象として、「平成24年度全国学力・学習状況調査」が行われました。調査は、文部科学省が調査対象として抽出した学校と、希望利用による学校で行われました。本年度、本校は調査対象として抽出され、調査に参加しました。内容については昨年と同様の国語A、国語B、数学A、数学Bの教科に関する調査と、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査に加え、理科が実施されました。このほど、その調査結果が発表されましたので、国語、数学、理科の教科についてご報告いたします。

傾向としては、国、広島県とともに、AがBに比べ平均正答率が高く、知識・技能が身につけているけれども、知識・技能を活用することに課題があるようです。初めての理科は他教科に比べ平均正答率が低く、期待されている力がついていないように思われます。今後ともさらなる学力向上に努めるとともに、生徒一人一人の弱点を見つけ、その補強に努めていきます。

各教科の平均正答率（％）

国語						数学						理科		
A問題			B問題			A問題			B問題					
国	県	本校	国	県	本校	国	県	本校	国	県	本校	国	県	本校
75.1	75.3	85.4	63.3	63.6	72.4	62.1	62.4	83.1	49.3	49.8	74.1	51.0	50.2	63.0

本校の定着状況と課題

国語

【領域ごとの定着状況】

国語A

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	本校
話すこと・聞くこと	87.7	88.6	98.0
書くこと	88.1	89.2	98.0
読むこと	65.4	64.7	70.4
言語事項	73.7	74.0	85.3

国語B

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	本校
話すこと・聞くこと	59.9	60.8	70.2
書くこと	57.4	58.5	65.0
読むこと	61.5	61.4	70.9
言語事項	—	—	—

・A問題では、全国平均、県平均を10ポイント程度上回っており、どの領域も基礎的な力は定着していると考えられます。また、無解答率が全国や広島県に比べて大変低いのは本校の良い傾向です。あきらめずに解答を書く意欲があると思われれます。B問題でもいずれの領域においても10ポイント程度上回っていますが、相手の発言を注意して聞き、自分の考えをまとめて書く発問の正答率が全体的に低い状況にありました。

【課題】

- ・選択式や短答式の問題では、高い正答率を上げることができていますが、理由を述べる記述式の問いに対応する力が、やや他と比較して低い傾向にあるので、日頃の授業の中で自分の考えを文章にする時間を確保していきます。また、授業中も相手の話をしっかり聞いて、自分の考えを持つという授業規律の基本も大切にしていきたいと思います。

数 学

【領域ごとの定着状況】

数学A

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	本校
数と式	67.5	67.3	88.9
図形	66.7	67.4	85.7
数量関係	52.1	52.6	74.7

数学B

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	本校
数と式	40.9	41.9	68.7
図形	59.7	59.6	81.3
数量関係	39.8	40.6	67.0

A問題では、数と式の領域では、全国平均、県平均を20ポイント以上上回り、90%近くであり、概ね計算力、表現力は定着しています。数量関係がやや低いものの、全国、県平均に比べると、大きく上回っています。

B問題では、A問題以上に両平均を上回っており、自ら考え、問題解決していく力も定着していると考えられます。

【課題】

数量関係領域において、関数の概念や、資料の活用についての定着が不十分のようです。記述式の問題に対する正答率が低く、解き方は理解できているが、考え方を説明できない生徒が多いようです。日々の授業の中で、説明する場面を設定していく必要があると思います。

また、A問題においては、90%の定着状況になるよう、ドリルも取り入れながら、基礎基本の定着を目指したいと思います。

理 科

【領域ごとの定着状況】

理科

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	本校
物理的領域	45.9	44.4	60.2
化学的領域	56.9	56.6	72.2
生物的領域	50.7	50.0	64.0
地学的領域	52.0	51.6	56.7

知識に関する内容、活用に関する内容ともに、ほとんどの領域が全国および広島県の正答率を上回っています。特に「物理領域」、「化学領域」では全ての項目が全国および広島県の正答率を上回っています。

基本的な知識や、実験結果の解析や、現象の説明方法が定着しています。

【課題】

本校では、高校に進学した際に地学専攻がないため、地学領域の指導が薄くなっていました。今後、地学分野の指導時間を多く取っていかねばならないと思います。また、各単元において復習の時間をしっかり確保できていないため、基本的な内容を忘れていていると考えられます。単元が終了する際には確認テストを行ったり、学年が上がっても日々の課題で、復習を取り入れたいと思います。